



厚木市立清水小学校

「しみずっ子の光り輝く安心・安全な学校」

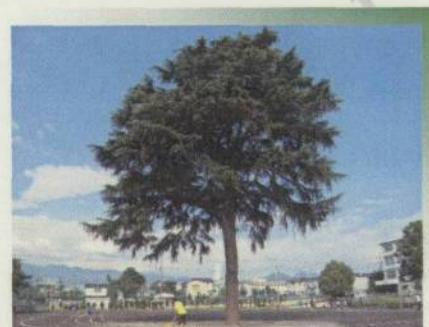
セーフスクールで安心・安全な学校づくり



A 清水小学校の概要

厚木市のほぼ中央に位置する清水小学校は、先人のたゆまざる努力によって創られた130年余の長い歴史とよき伝統を大切に、地域と家庭との信頼と尊敬で結ばれる学校づくりに努力している。

校庭にそびえる一本のヒマラヤスギの大樹は、本校のシンボルとして市民から親しまれており、また、小学校に隣接する妻田薬師（遍照院）には県指定天然記念物である樹齢約500年のクスノキや市指定有形文化財の薬師堂がある。



清水小のシンボル「ヒマラヤスギ」

1 児童数

全校児童数 916人（2010年2月1日現在）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	学習室	合計
クラス数（クラス）	5	4	5	4	5	4	5	32
児童数（人）	162	141	167	144	146	140	16	916

2 地理的な特徴

清水小学校は、本厚木駅から北へ約3km、神奈川県厚木市のほぼ中央に位置している。東に中津川、西に小鮎川と2つの河川に挟まれた住宅の多い地域で、国道412号線、246号線が区域を南北に貫き、交通量も多い地域である。

B 外傷状況の把握

1 校内外傷発生データの集計

2008年4月1日から2009年3月31日までの間、学校保健室に寄せられた外傷データ5,636件を集計

- ・けがをした時間帯のトップは、「昼休み」で約15%、次いで「15分休み」が11%
- ・けがをした場所は、「教室」がトップで約27%、次が「校庭」で約23%

2 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査の実施

2008年10月、全校児童を対象に自転車用ヘルメットに関するアンケート調査を実施

- ・自転車用ヘルメットを持っている児童は、全体の約25%
- ・自転車を持っている児童中、いつも自転車用ヘルメットをかぶっている児童は約9%

3 ワークショップの実施

しみずっ子すこやかネットワーク会議のメンバーを中心に、3回のワークショップを開催。各回の参加者は約30人。地域課題の抽出・共有、対策の検討などを行っている。



C 課題と目標

1 優先課題

(1) 校内外傷発生データから導き出された課題

- ・「昼休み」や「15分休み」など休み時間にけがが多く発生している。→ 休み時間のけが防止の注意喚起
- ・「教室」、「校庭」でけがが多く発生している。→ けが発生場所の周知

(2) 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査結果から導き出された課題

- ・児童のほとんどが自転車を所有しているが、自転車用ヘルメットの所持者は全体の約25%、自転車用ヘルメットの着用率は10%にも満たない。→ 自転車用ヘルメット着用の推進



2 目標

- (1) 校内外傷発生件数の削減 (2008年度件数: 5,636件)
- (2) 自転車用ヘルメット着用率の向上 (2008年度着用率: 8.8%)

D 分野横断的安全推進組織の設置

1 しみずっ子すこやかネットワーク会議

PTAや学校、青少年関係団体、交通安全関係団体、自治会、老人会など地域の様々な団体関係者により構成されており、地域の子どもの生活安全・交通安全・生活指導等を地域ぐるみの活動に広め、子どもも地域の皆さんも安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいる。

また、児童委員会と連携し、協議内容等の情報を相互に共有、効果的な対策を協力して展開している。

なお、2009年4月からは、厚木市が指定する「セーフコミュニティモデル地区」として、市のセーフコミュニティ活動と連携し、学校や子どもを基軸とした取組の中心的役割を果たしてきた。

2 児童会・各委員会

児童会を中心に、5、6年生で構成された保健委員会をはじめとする各委員会が、校内の安全に関する事項について対策を立て活動する。

また、しみずっ子すこやかネットワーク会議との連絡・調整を密にし、相互の意見を活動に活かすなど連携を図っている。

E スクールポリシー

清水小学校教育プラン: 「しみずっ子の光り輝く安心・安全な学校」

重点: 「元気な体・安全・安心」

- 1 校庭施設等を活用した体力づくりの推進
- 2 食教育・給食指導の推進
- 3 安全で安心して生活できる学校
- 4 交通安全指導の充実



しみずっ子すこやかネットワーク会議目的 (抜粋)

「地域の子どもの生活安全・交通安全・生活指導等を地域ぐるみの活動に広める展開を進め、子どもも地域の皆さんも安心して暮らせる街づくり運動に発展させる。」



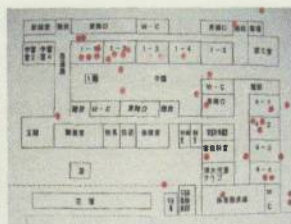
F 安全向上プログラム

1 校内外傷発生箇所図の掲示

校内に学校の平面図を掲示し、児童自らがけがをした箇所にシールを貼り付けている。

危険箇所が可視化されるとともに、安全への関心を高める。

また、改善すべき点を児童自らが発見し、具体的な対策を提案する。

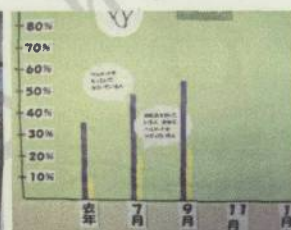


2 校内けが予防運動（実施予定）

児童会・各委員会が、校内外傷発生データをもとに、けがの多く発生した「時間帯」、「場所」などを児童に周知し、注意を喚起するとともに、ルールづくりや、児童相互の管理体制を確立する。

3 ヘルメット着用運動、ヘルメット着用率グラフの掲示

自転車用ヘルメットの着用を促すチラシの配布や、着用率の調査結果をグラフ化したものを校内に掲示するなど、児童や保護者への啓発、意識改革を推進している。



4 自転車安全教室等の実施

自転車の安全な乗り方やマナーなどを学ぶ自転車安全教室等を実施している。

また、「交通安全子ども自転車神奈川県大会」に出場し、自転車安全教室等で習得した自転車運転技術の成果を発揮した結果、見事第4位に入賞した。



5 地域安全マップの作成

子ども達自身の眼で地域の危険箇所や不安箇所を確認し、マップにまとめている。子どもの危険予知能力や危険回避能力、防犯意識の向上を図るとともに、地域への愛着心を育む。



6 愛の目運動

老人会や交通安全指導員、交通安全母の会、PTAなどの各種団体が、登下校時の子どもの安全を守るため、見守り運動を実施している。



7 セーフティーベスト着用運動

愛の目運動を始めとした各種活動や行事開催の際に、従事者がセーフティーベストを着用し、市民が一丸となって安全に対する取組を行っていることを不審者等に見せることにより犯罪等の未然防止を図っている。

8 かけこみポイントの充実

児童を不審者等から守ることを目的に、住宅や商店を緊急避難場所として指定し、通学路等の安全確保を図る「かけこみポイント」の指定数の一層の拡大のため、各家庭や商店へ協力を呼びかけ、現在、850箇所余りが登録されている。



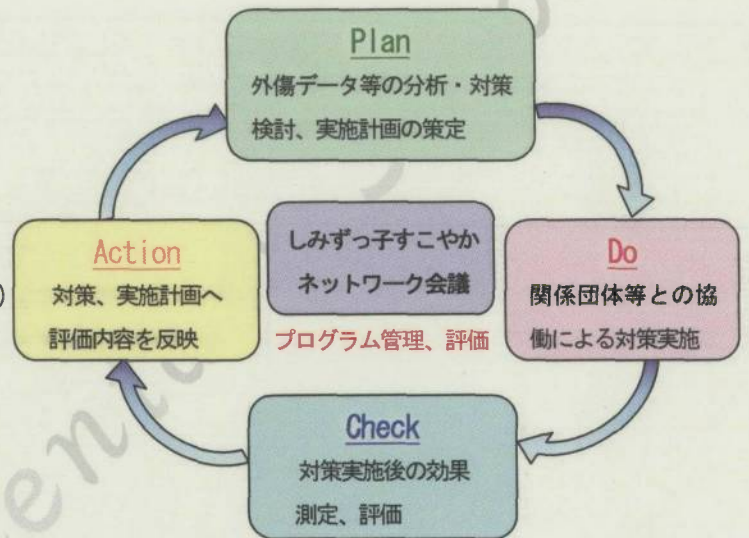
G 外傷データ記録プログラム

- 1 校内外傷発生データ収集
校内で発生したけがのデータを保健室において収集し、けがをした「時間」、「場所」、「原因」、「種類」、「部位」などの情報を記録している。
- 2 校内外傷発生箇所データ収集
校内に学校の平面図を掲示し、児童自らがけがをした箇所にシールを貼り付けている。
- 3 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査
全児童を対象に、自転車の所有の有無及びヘルメットの所有の有無並びに着用の有無を調査している。

H 評価指標

※ 目標値を今後設定

- 1 校内外傷発生件数 (2008年度：5,636件)
- 2 自転車ヘルメット着用率 (2008年度：8.8%)
- 3 交通事故ゼロ日数 (2010年3月1日現在：300日)
- 4 しみずっ子すこやかネットワーク会議におけるプログラム管理、評価



I ネットワークへの継続参加

- ・2008.11 「セーフコミュニティ推進に向けての市民総決起大会」(厚木市)にて取組を発表
- ・2009.2 アジア地域WHOセーフコミュニティ認証センター指導者が清水小学校を視察
- ・2009.3 台湾国内のWHO国際セーフスクールを視察
- ・2009.4 「しみずっ子すこやかネットワーク会議」が厚木市セーフコミュニティモデル地区に指定
- ・2009.9 「第13回融合フォーラム2009 in 神奈川」(厚木市)にて取組を発表
- ・2009.11 「セーフコミュニティ認証取得に向けての総決起大会」(厚木市)にて取組を発表
- ・2009.11 韓国国内のWHO国際セーフスクールを視察
- ・2010.2 「第31回厚木市立小・中学校PTA活動研究大会」(厚木市)にて取組を発表
- ・2010.3 大阪教育大学附属池田小学校のWHO国際セーフスクール認証式典に参加
- ・2010.3 「アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」(大阪府池田市)に参加
- ・2010.3 「第19回セーフコミュニティ国際会議」(韓国スウォン市)でポスター発表予定



2009.9 第13回融合フォーラム2009
In 神奈川



2009.11 セーフコミュニティ認証取得
に向けての総決起大会



2010.2 第31回厚木市立小・中学校
PTA 活動研究大会